平成28年度入試【3年次編入学】

【日本語学・日本文学】

（法文学部　言語文化学科）

注意

1　問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
2　問題紙は1ページである。解答用紙は2枚である。
3　指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
4　答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
5　解答用紙は持ち帰ってはいけない。
試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

言語文化学科　日本語学・日本文学

問題紙は、この1ページのみである。

一　次の和歌と詞書を読んで後の問いに答えよ。

一条院御時、殿上の人々花見にまかりて、女のもとにつかはしける

源雅通朝臣

A をらばをしをらではいかが山桜けふをすぐさず君に見すべき

返し　　盛少将

B をらでただ語りに語れ山桜風に散るだにをしきにほひを

（『後拾遺和歌集』巻一・春上による）

問一　傍線部Aを口語訳せよ。

問二　傍線部Bを口語訳せよ。

二　日本語のハ行（ハ・ヘ・ホ）の清音・濁音は、[h]と[b]とで対立するが、音声学的にはきわめて変則的である。この清濁の対立がなぜ変則的かを指摘したうえで、このような対立をなすに至った歴史的経緯を説明せよ。

三　次の漢詩は、若槻礼次郎（一八六六―一九四九。島根県出身の政治家。二回首相となる）作の「古風庵雑詩」（古風庵は若槻の別荘の名）である。読んで、以下の問いに答えよ。返り点、送り仮名はすべて省略した。

連旬祈雨草将枯。樹葉黄乾及旧株。昨夜簷頭聴点滴。今朝無物不和愉。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　韻字をすべて指摘せよ。

問三　起句の「草将枯」をひらがなだけで書き下せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問四　結句「今朝無物不和愉」をわかりやすい日本語に訳せ。

四　以下の問いに答えよ。

問一　平安時代の歌合について知るところを述べよ。

問二　西鶴の浮世草子について知るところを述べよ。

問三　次の文学史的事項の中から一つを選び、知るところを簡潔に述べよ。

島崎藤村　萩原朔太郎　安部公房

小説「春琴抄」　小説「斜陽」　小説「仮面の告白」